

動画教材と意見分析ツールを活用した 道徳授業プログラムの開発

Development of Moral Education Programs
utilizing Video Teaching Materials and Opinion Analysis Tools

藤川 大祐

Daisuke FUJIKAWA

千葉大学

Chiba University

<あらまし> 「考え、議論する道徳」に向けて、動画教材と意見分析ツールから成る授業プログラムを開発し、小学校及び中学校で実際に授業を行った。ステレオタイプを排し多様な意見が出るよう作成された動画教材と、ホットワード分析やカテゴリ分類ができる意見分析ツールによって、児童生徒がタブレット端末から意見を書き込み、他の児童生徒の意見をキーワードやカテゴリを頼りに読み、他の児童生徒の考えに触発されて自らの考えを変える授業を行うことができた。

<キーワード> 道徳 動画教材 意見分析ツール 授業プログラム 教材開発

1. 「考え、議論する道徳」に向けて

小学校で平成 30 年度から、中学校で平成 31 年度から道徳教育は「特別の教科」となり、これまで主流だった登場人物の気持ちを読み取らせる授業でなく、「考え、議論する道徳」が求められている。すなわち、児童生徒が互いの多様性を尊重しつつ、多面的に意見を出しながら考えを深め、当事者意識をもって問題解決にあたるようにする授業が求められていると言える。

しかし、藤川 (2017) で明らかにしているように、これまでの教材では相変わらず登場人物の気持ちを読み取らせるものが多く、そうでない A か B かの二値的な課題を扱う授業は提案されているものの、児童生徒が互いの多様性を尊重しながら問題の解決にあたるようなものとはなりにくい。

こうした状況を踏まえれば、「考え、議論する道徳」を志向する新たな授業プログラムの開発が求められていることがわかる。これには、

A 児童生徒が当事者意識をもって多様な考えを出すことを喚起できる教材の開発

B 児童生徒の多様な意見を適切に交流できるシステムの開発

の二つの要素があることが望ましいと考えられる。

本研究では、上記 A 及び B を開発し、実際に小学校及び中学校で授業を実施し、その成果を検

証したものである。

2. 動画教材の開発

上記 A として、動画教材「ボクたちの出来事」を開発した。「考え、議論する道徳」に資するという観点から、この動画教材は以下の特徴をもつものとした。

1) 同様のフォーマットで複数のテーマを取り上げられるようにするため、基本的な登場人物が対話をする基本場面 (実写) と、各話の中心的話題が展開される部分 (デジタル紙芝居)、補足のインタビュー映像といった要素から構成される。

(本研究では 2 話分を作成)

2) 基本場面は、男女 1 名ずつの中学生と 1 名の大人の計 3 名が地域コミュニティにおける井戸端会議のような場とした。ステレオタイプの描写となることを避け、おとなしい男子、活発な女子、下半身麻痺で車椅子利用者の大人といった人物設定を緻密に行った。

3) 中心的話題は、藤川 (2016) で論じた重要な課題の中から、社会的包摂と「バレなければよい」の二つを取り上げ、それぞれ登場人物の身近に起こった問題として描写した。

4) 登場人物が「どうしたらこのような問題が起きないようにできるか」と児童生徒に直接呼びかける形をとり、児童生徒が当事者意識を持てるようにするとともに、具体的な問題のレベルでもよ

り一般的なレベルでも考えられるようにしている。



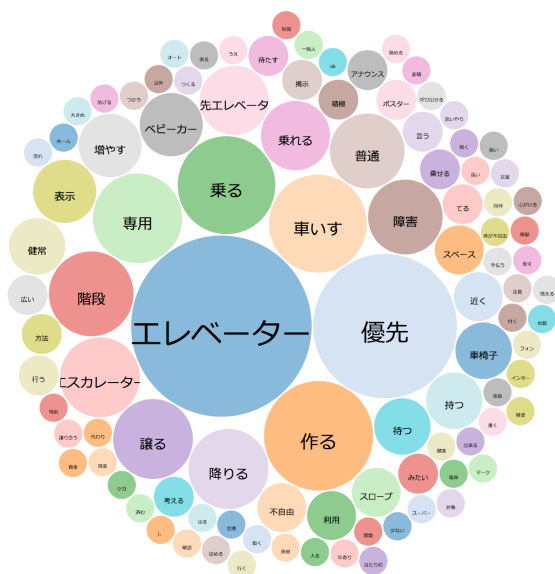
3. 意見分析ツールの開発

Bとして、児童生徒の意見を分析するシステムを開発した（以下、「意見分析ツール」とする）。児童生徒がインターネットに接続されたタブレット端末等のブラウザから意見を入れ、クラウド上のプログラムが児童生徒の意見について分析を行い、分析結果を教師用の端末でも児童生徒用の端末でも探索的に閲覧できるようにしている。

意見分析ツールによる分析では、以下の2種類のことができる。

ア) **ホットワード分析**…児童生徒の意見を形態素分析し、助詞、助動詞、形式名詞等以外の語の登場頻度に応じて円の大きさが異なって表示される。語の部分をクリック（タップ）すると、その後を含む意見が一覧表示される。

イ) **カテゴリ分類**…IBM のコグニティブ・コンピューティング・システム **Watson** のクラス分類機能を用いて、児童生徒の意見を分類表示する。分類ごとに含まれる意見が一覧表示される。



4. 成果と課題

2017年2月、千葉大学教育学部附属中学校1年生（授業者は藤川）及び千葉大学教育学部附属

小学校5年生（授業者は同校教員）で動画教材と意見分析ツールとを活用した授業を実施した。

筆者や他の関係者の衣装としては、それぞれの授業で、児童生徒は動画教材に強い関心を示し、文字入力是不慣れであったものの、集中して意見を書いたり話し合ったりしていた。特に、ホットワード分析やカテゴリ分類から個々の児童生徒の意見をたどれることや、自分の意見がどのように分類されているかを知ること、児童生徒は強い関心を示していることがうかがわれた。そして、全体として多様な立場を想定し、具体的な問題の解決から抽象的・一般的なレベルでの改善まで多様なレベルを視野に入れて議論がなされていた。

授業後の質問紙調査では、普段より自分の考えをしっかりと伝えられたとする者が中学生 92%、小学生 70%、他の意見を見ることで考えが変わったとする者が中学生 78%、小学生 85%、授業が楽しいと感じた者が中学生 100%、小学生 97%であり、多数の児童生徒について開発の意図に見合った成果が見られた。

文字入力の円滑さ、動画教材のわかりやすさ、カテゴリ分類の精度等については課題が残った。

なお、動画教材「ボクたちの出来事」はアクティブブレインズ社のサイト内の下記ページから無料公開しており、意見分析ツールの研究的利用についても同社が相談を受け付けている。

<http://www.active-brains.co.jp/2017doutokujugyou/>

謝辞

本研究は、文部科学省より平成28年度「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」による助成を受け、株式会社アクティブブレインズをはじめ多くの関係者の協力を得て実施されました。関係各位に感謝申し上げます。

引用文献

藤川大祐（2016）、「社会とつながる道徳教育」の構築―「特別の教科 道徳」の教育課程及びカリキュラム・マネジメントに関する考察―、授業実践開発研究 10, 1-10

藤川大祐（2017）、「道徳授業における二値的課題の扱いに関する批判的検討―「考え、議論する道徳」に資する教材開発の構想―、授業実践開発研究 10, 1-8